

## 山の木を利用した山間部の活性化と 災害に強い森づくりについて意見交換

西条市の進める実践防災計画を指導していたら、京都大学の小林正美教授と田中樹准教授ほか3名の研究者が来西し、5月8日・9日の両日にわたって木製ダム（うきづつ）の現地視察や意見交換会などが実施されました。

初日は、黒瀬ダム1号公園付近に設置してある木製ダムを見学後、大保木公民館で「山の活性化を自由に語る会」を開催しました。語る会では、地元住民の皆さんや西条建設業協同組合、新居森林組合、市職員など約50人が参加し、防災事業の取り組み状況や木製ダムの設置状況、大保木地区の地域活動について各団体から発表があり、山の木を利用した山間部の活性化のあり方や今後の山の保全について、活発な意見を交わしました。

翌日には、田中准教授と市職員で山の活性化についてより具体的な話し合いを行い、山間部特有の農産物等の育成や人が集える仕組みづくりなど、さまざまな企画の提案や検討を行いました。今後も山の活性化について継続して話し合いを重ねていく予定です。

■問合せ 市庁舎本館危機管理課  
防災計画係 TEL 089715211282



▲木製ダムを視察する京都大学の皆さん



▲大保木公民館での意見交換会

## 四国鉄道文化館（仮称）



「新幹線生みの親」は  
「西条市名誉市民」だった！



十河 信二氏  
(1884～1981年)

なぜ0系新幹線が鉄道文化館に展示されることになったのか？  
そのことは西条市と深い関係を持つ、ある人物の存在を抜きにしては語れません。  
「線路を枕に討死する」  
世間から注目を浴びたこの言葉とともに昭和30（1955）年、一人の明治男が第4代国鉄総裁に就任しました。  
その人物の名前は、十河信二氏。  
旧西条市の第2代市長も務めた、名誉市民の一人です。  
明治17（1884）年に現在の新居浜市中萩町で生まれた十河氏は、西条中学（現在の西条高校）、東京帝国大学を卒業した後、鉄道院に勤務しました。そして、様々な要職を経験した十河氏は戦後、西条市長などを経て、国鉄総裁に就任します。  
総裁になった十河氏は、東海道新



▲新丹那トンネル熱海側入口で挙行された東海道新幹線起工式での十河氏。

幹線の建設を主張しましたが、車社が到来して「鉄道の斜陽化」が常識となっていた時代に、その主張は周りから猛反対されます。  
それでも頑固一徹の十河氏は、当時の鳩山一郎首相をはじめ、後の岸信介首相や佐藤栄作首相などの有力政治家、国の役所を精力的に訪ねて、新幹線建設の必要性を説きました。  
そして、島秀雄氏などの優秀な技術者の獲得にも成功して、不可能といわれていた新幹線建設を実現したのです。  
まさしく「名誉市民」の十河氏は「新幹線生みの親」であり、そんな縁があつて、JR四国のご厚意により、0系新幹線が鉄道文化館に展示されることとなりました。